

## 帰省し、 『帰省』することの 大切さ

今夏はエルニーニョ現象の影響で、例年に比べて猛暑が噂されていましたが…一転して冷夏との呼び声がかかる。皆さんは夏対策、万全ですか？そんな事を言ってる間に、今年も気がつけばアツと言う間に八月、お盆の月になりました。毎年お盆の帰省ラッシュは、まさに人類大移動戦争(笑)と言つていくくらい見事なのですが、考えてみれば帰省をして、ちゃんと「帰省」をしている人がどのくらいおられるでしょうか？「帰省」の語源は、「故郷に帰つて親の安否を気遣う」という唐の詩人、朱慶余の漢詩が典故です。また、「自らを省みる事」でもあるのです。どうですか？「帰省」と言う名のゴールデンウィークならぬ、長期休暇・休息を取る為の休みと思いいちをしている人が多いのではないのでしょうか？まあまあそれはそれで良いとしましょう。しかし、本来の『親をはじめ、ご先祖様の孝行報

恩』、そして『日頃の「生かされている」事への反省』もしないで、ただのお休みだと捉え違いしているだけでは、せつかくの「帰省」という時間が勿体なく思うのは私だけでしょうか。これは、決して「帰省」に限ったことではありません。世の中を見渡した時に、何やら世の中全体が空しく、何をすることも軽々しく、人と人の間には思いやりや優しさ、古き良き日本人が大事にしていた義理人情なんてものが微塵も感じられない、希薄な日本人が多くなつた様な気が致します。本当に残念な事です。

近代資本主義、合理主義という名のもと、拜金主義をはじめとする、目に見えるものだけが信用され、人々はそれを追い求めるようになりました。いっしょか欧米化が進み、個人・個性が重んじられる様になりました。しかし欧米を見習つて真似てきた、個性というものも履き違えて認識され、ただの「我がまま坊っちゃん、嬢ちゃん」をつくり出す結果になりました。それは自分だけが良ければそれで良いという考え方で、現在は落ち着いてしまいました。これではいけないと思ひながら、どうすることもできない現状が目の前に横たわっています。昔から言います、「最近の若者は…何を考えているのやら…」と。そして大人達は子供達を卑下します。では今の若者が、子供達がどうしようもないと言つたら、その子供を正せば良いのでしょうか？いえ違います。子供は昔も今も精神的に何も変わらない様に思います。これはお寺で開催している、夏の子供道場の中で、子供達と接していると感じます。子供は、やはり素直ですよ。ただ、昔と圧倒的に違つ事は、物が溢れました。食べ物にしても、着る物にしても、オモチャにしても、何でも欲しい物が手に入る、不自由のない世の中になりました。1軒家を持ち、1人に1台の車、全ての部屋にはテレビがあり…と。それは決して悪いことではないと思ひます。それは敗戦後、荒れ果てた日本を、ここまで発展させ、世界経済第二の先進国日本を創つてこられた、先輩方(親様・ご先祖様)の努力の賜でありましよう。戦後育ちの私達子孫にとつては、本当に有り難いことです。感謝しても感謝しきれないというのが、本当でしょう。しかしその有り難みを考えることもなく、あたかもそれが「当たり前」の事のように、感謝のできない戦後育

ちの親御さんが、多くなつてきたということが根本の問題だと思ひます。

そう考えると、やはり小さい子供を育てる責任のある親御さんが、もつとシャキツとして、当たり前ではなく、「有り難い」という事に気が付かなければいけないでしょうね。子供は大人の背中を見て育つものです。これは忘れてはいけません。私達は世の中を生きた時、人との繋がり、自分以外の人間との「人間関係」を除いては成り立ちません。子供達も同じです。

保育園や幼稚園に入園する前に、子供達は最初の社会、家族の中で育ちます。家族が最初の小社会です。その小社会の中の考え方が、何よりも肝心な事です。子供にとつてみれば、最初に目標とするのが両親です。その両親の息がピタツと合っている事が大事なのです。母親が父親をどこまでも尊敬し、父親は母親に感謝する関係、その様な夫婦間の子供は、精神的に落ち着き、自分自身子供であるという立場をわきまえ、両親の言うことを聞く、良い子に育つと言ひます。

自然界を振り返ってみましょう。天にはいつもサンサンと温かい眼差しで、命の源を降り注いでくれている、太陽が堂々と存在しています。私達は常日頃、この太陽という命の源に感謝しているでしょうか？どちらかと言えば私達にとって、太陽の存在は当たり前になり、普段あまり感謝していませんよね。しかしいつ何時といえども、私達はあらゆる自然に生かされているのも間違いない事実です。あらゆる生物が太陽に向かって育っていく様に、子供達にも、尊敬し目標とする親御さんの存在が欠かせないので。子供にとって親御さんは太陽のような存在です。どんどん温かい愛情を降り注いで下さい。お友達感覚でいる親子関係、子供を自分の所有物と勘違いしている親御さんがいるなら、どうか目を醒まして下さい。本当の愛情とは、どのような愛情でしょうか。心を豊かにしてあげることが何よりですよ。心を豊かにしたければ、まず自分の心が豊かにならなければいけません。もう既に子供や、お孫さんを持っている方も、自分の両親からすれば、自分は子供の立場です。心を豊かに

する基本は、自分の両親、そしてご先祖様に感謝する事です。両親・ご先祖様に合掌し、頭を下げて感謝の念を捧げることです。合掌をして両親に感謝し、尊敬している姿ほど美しい姿はありません。その後ろ姿を子供に見せることが、子供にとって何よりの情操教育になるのです。その様な生活を心掛けていけば、子供達も同じように両親に感謝し、言うことを聞く子供に成長してくれる筈です。

日頃は忙しい生活の中であまり考える暇もないでしょうから、この『帰省』という機会に1度立ち止まって、「親御さん（ご先祖様）への報恩感謝」、そして「自己反省」をしてみても如何でしょうか。また、息子さん夫婦や、娘さん夫婦を迎え入れる你家のお宅も多いと思います。どうぞ「帰省」の本来の意味を教えてあげて下さい。お盆の「帰省」という機会は、ご先祖様から頂いた、最後のプレゼントです。どうかわだかまりのない、より良き家族関係、より良き素晴らしい人生を歩んで下さることを、心より祈っています。

合掌 副住職 谷川寛敬